

# ロボティクス 第4回

静力学と外積

李 周浩

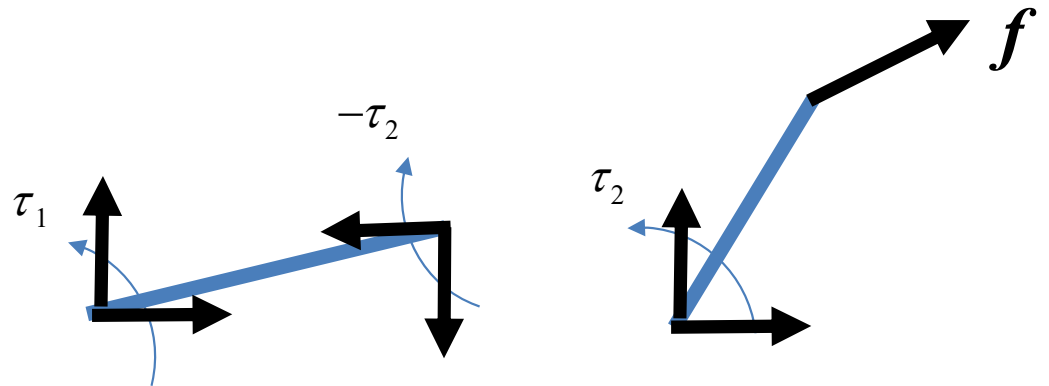
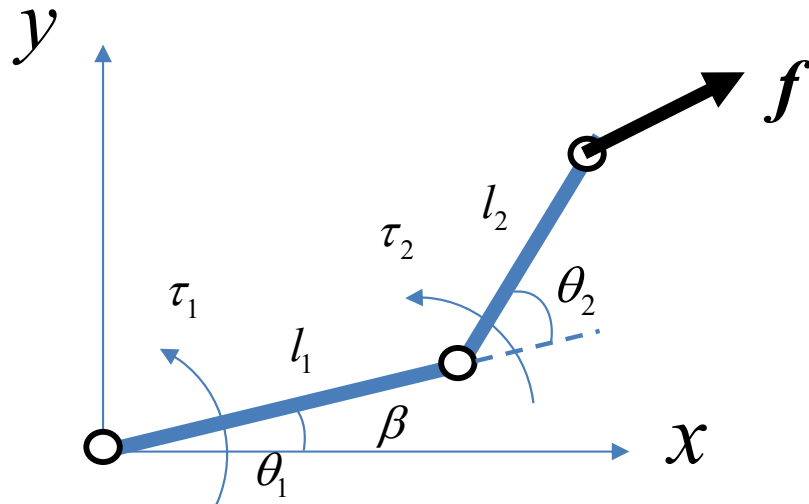
# 静力学

ロボットが静止状態or 準静的な状態における力の釣り合い

水平面内で運動する2リンクロボットの先端に力  $f := [f_x, f_y]^T$  がかかっている.

これに釣り合うための関節トルク

$\tau := [\tau_1, \tau_2]^T$  を求めよ.



# 静力学

各セグメント（リンク）の

- ・ 平面内の力の釣り合い
- ・ モーメントの釣り合い

を考える

## 【第2リンク】

x方向の力の釣り合い  $f_x + R_x = 0$

--(1)

y方向の力の釣り合い  $f_y + R_y = 0$

--(2)

第2関節軸周りのモーメントの釣り合い

$$-f_x \cdot l_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) + f_y \cdot l_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) + \tau_2 = 0$$

ここに,  $R_x, R_y$ は, 第1リンクが第2リンクに及ぼす力

## 【第1リンク】

$$-R_x + r_x = 0$$

--(4)

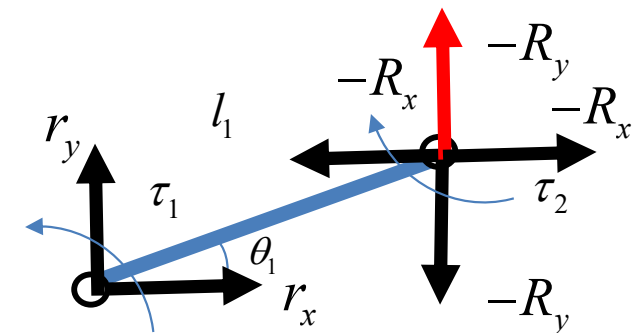
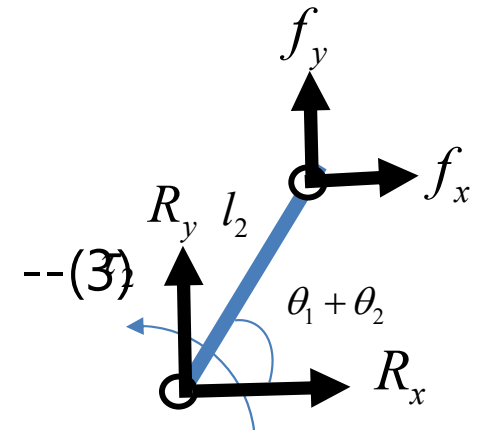
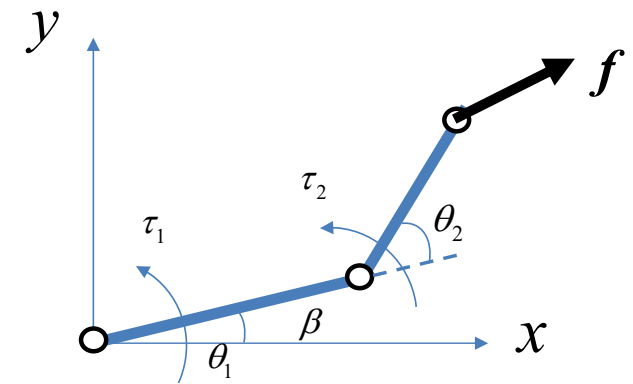
$$-R_y + r_y = 0$$

--(5)

$$R_x \times l_1 \sin \theta_1 - R_y \times \cos \theta_1 - \tau_2 + \tau_1 = 0$$

--(6)

ここに,  $r_x, r_y$ は, 土台が第1リンクに及ぼす力



# 方法 1 の続き

$$f_x + R_x = 0$$

--(1)

$$f_y + R_y = 0$$

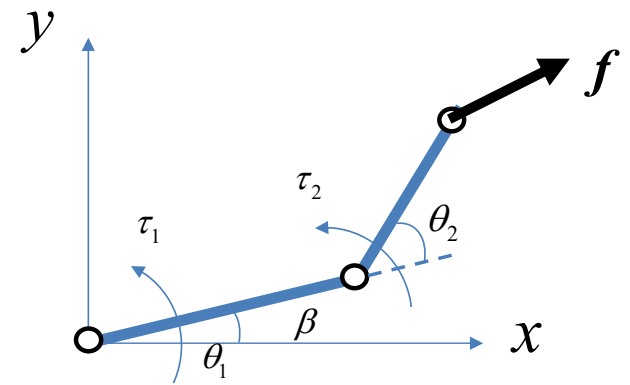
--(2)

$$-f_x \cdot l_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) + f_y \cdot l_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) + \tau_2 = 0$$

--(3)

$$R_x l_1 \sin \theta_1 - R_y l_1 \cos \theta_1 - \tau_2 + \tau_1 = 0$$

--(6)



式(6)に(1), (2)を代入し,  $R_x, R_y$ を消去する.

$$\tau_1 - \tau_2 = f_x l_1 \sin \theta_1 - f_y l_1 \cos \theta_1 \quad \text{--(7)}$$

式(3)+(7)

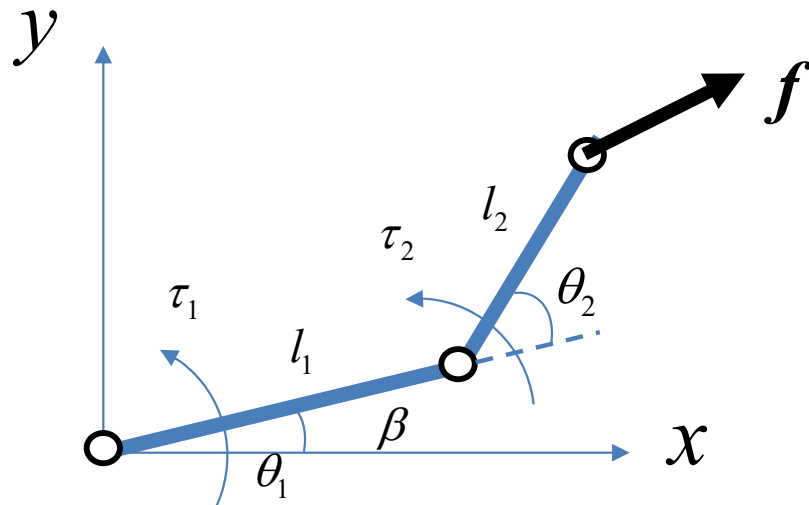
$$\tau_1 = f_x (l_1 \sin \theta_1 + l_2 \sin(\theta_1 + \theta_2)) - f_y (l_1 \cos \theta_1 + l_2 \cos(\theta_1 + \theta_2)) \quad \text{--(8)}$$

$$\begin{bmatrix} \tau_1 \\ \tau_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} l_1 \sin \theta_1 + l_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) & -l_1 \cos \theta_1 - l_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \\ l_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) & -l_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} f_x \\ f_y \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} \tau_1 \\ \tau_2 \end{bmatrix} = -J^T \begin{bmatrix} f_x \\ f_y \end{bmatrix}$$

$$\boldsymbol{\tau} = -J^T \boldsymbol{f}$$

# つり合う力とトルク



$$\tau = -J^T f$$

$$\tau + J^T f = 0$$

つり合い  
トルク

ロボットの  
姿勢

外部からロボットが受ける力

← 正解

or

外部にロボットが及ぼす力

# 静力学（省略）（p 68参照）

$$\boldsymbol{\tau} = -\boldsymbol{J}^T \boldsymbol{f} \quad \text{が一般的に成立することを証明}$$

## 【仮想仕事の原理】

釣り合い状態にあるとき，任意の物体の仮想的な変位（仮想変位） $\delta u$ によって，物体にかかる力 $F$ が行う仕事の総和（仮想仕事） $\delta W$ は0である．

## 【n自由度リンクロボットへの応用例】

仮想仕事は次式で与えられる．

$$\delta W = \boldsymbol{\tau}^T \delta \boldsymbol{\theta} + \boldsymbol{f}^T \delta \boldsymbol{r} \quad (1)$$

仮想仕事の原理から $\delta W=0$ であり，  
以下が成立する．

$$\delta W = \boldsymbol{\tau}^T \delta \boldsymbol{\theta} + \boldsymbol{f}^T \delta \boldsymbol{r} = 0 \quad (2)$$

ここで微小な仮想変位 $\delta \theta$ ,  $\delta r$ 間には  
次式の関係が成立する．

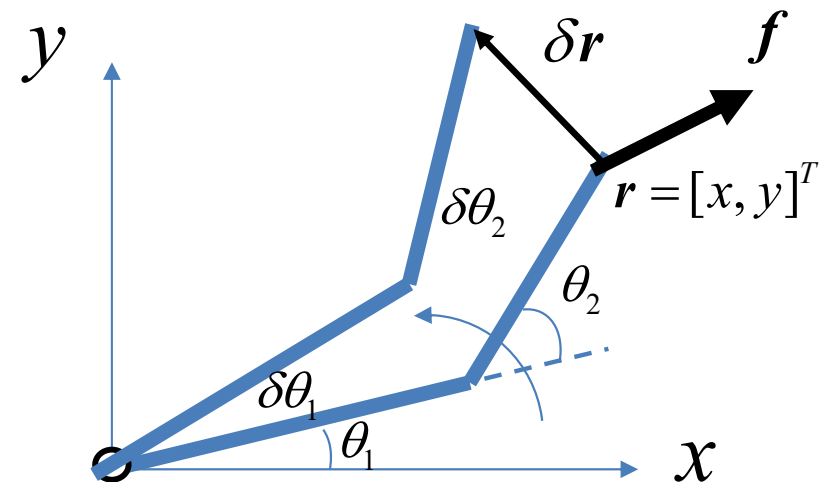
$$\delta \boldsymbol{r} = \boldsymbol{J} \delta \boldsymbol{\theta} \quad (3)$$

式(3)を式(2)に代入し，式(4)を得る．

$$(\boldsymbol{\tau}^T + \boldsymbol{f}^T \boldsymbol{J}) \delta \boldsymbol{\theta} = 0 \quad (4)$$

仮想仕事の原理から，任意の $\delta \theta$ についてこれが成立することから，  
を得る．

$$\boldsymbol{\tau} = -\boldsymbol{J}^T \boldsymbol{f}$$



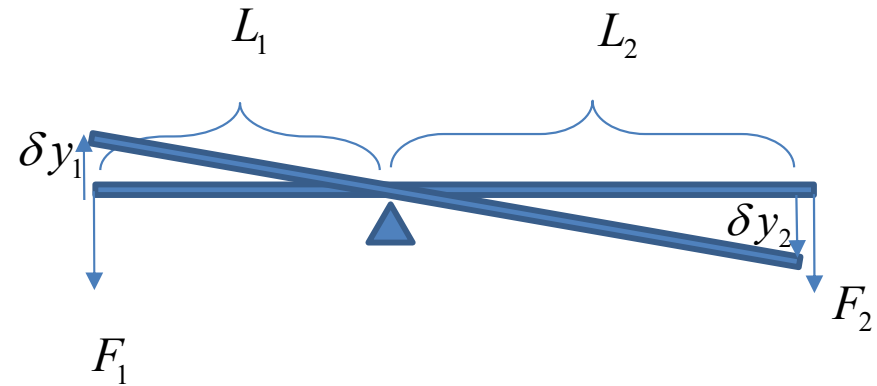
# 仮想仕事の原理の別例（省略）

水平状態で釣り合っているてこを考える。  
力 $F_1$ ,  $F_2$ の関係を, 仮想仕事の原理から求めよ。

仮想変位( $\delta y_1$ ,  $\delta y_2$ )を考える。微小であるから,  
鉛直方向であると近似できる。

仮想仕事の原理より, 次式が成立する。

$$-F_1 \delta y_1 + F_2 \delta y_2 = 0 \quad (1)$$



また, 仮想変位 $\delta y_1$ と $\delta y_2$ の間には式 (2) の関係が成立する。

$$\delta y_1 = L_1 / L_2 \delta y_2 \quad (2)$$

式(2)を式(1)に代入し, 式 (3) を得る。

$$(-F_1 L_1 / L_2 + F_2) \delta y_2 = 0 \quad (3)$$

式 (3) は任意の $\delta y_2$ で成立するから, 式 (4) が得られる。

$$F_1 L_1 = L_2 F_2 \quad (4)$$

# 外積（ベクトル積）の定義

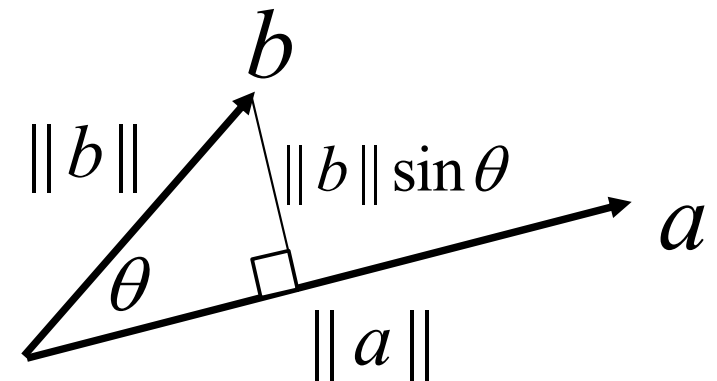
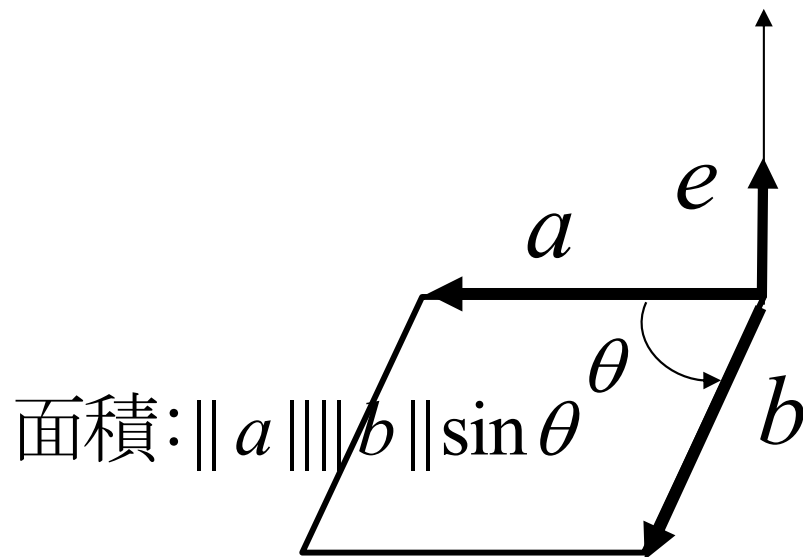
【外積（ベクトル積）（p70）】

【（初等的）定義】

2つのベクトル  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} \in R^3$  に対して、以下を $\mathbf{a}$ と $\mathbf{b}$ の外積という.

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = (\|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta) \mathbf{e}$$

ここに、 $\theta$ はベクトル $\mathbf{a}$ とベクトル $\mathbf{b}$ のなす角  $\theta \in [0, \pi)$  であり、 $\mathbf{e}$ は、ベクトル $\mathbf{a}$ からベクトル $\mathbf{b}$ 方向に右ねじを回した際にねじが進む方向を向く、単位ベクトルである.





# 外積の性質 ( 1 )

## 【外積の基本的性質】

- (i) 交換則  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = -\mathbf{b} \times \mathbf{a}$
- (ii) 分配則  $\mathbf{a} \times (\mathbf{b} + \mathbf{c}) = \mathbf{a} \times \mathbf{b} + \mathbf{a} \times \mathbf{c}$
- (iii) 結合則  $(m\mathbf{a}) \times \mathbf{b} = m(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) = \mathbf{a} \times (m\mathbf{b})$

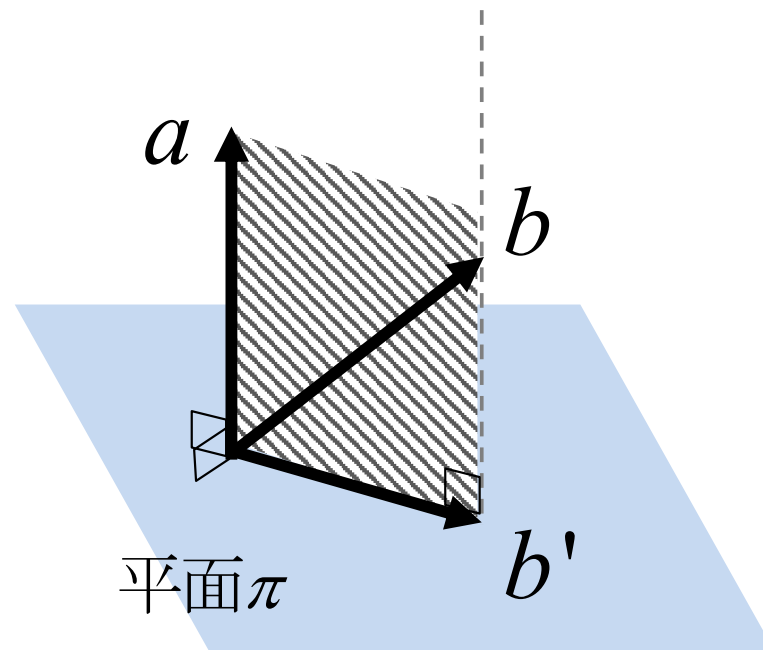
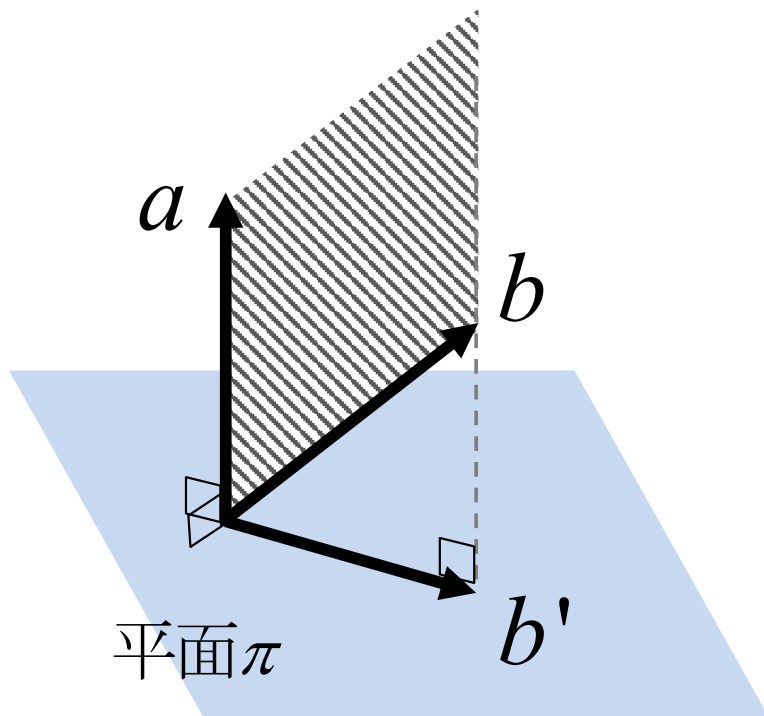
## (ii) 分配則 $a \times (b + c) = a \times b + a \times c$ の証明 (概略)

### 【準備】

ベクトル  $a$  に垂直な平面  $\pi$  を考える.

ベクトル  $b$  を平面  $\pi$  に射影したベクトルを  $b'$  とおくと  
ベクトル  $a, b$  が張る平行四辺形 (左図) と,  
ベクトル  $a, b'$  が張る平行四辺形 (右図) は同じ面積をもつため, 次式が成立する.

$$a \times b = a \times b'$$



ベクトル $\mathbf{a}$ に垂直な平面 $\pi$ を考える.

ベクトル $\mathbf{b}, \mathbf{c}, \mathbf{b}+\mathbf{c}$ を平面 $\pi$ に射影したベクトルを $\mathbf{b}', \mathbf{c}', (\mathbf{b}+\mathbf{c})'$ とおく (左図).

$(\mathbf{b}+\mathbf{c})'=\mathbf{b}'+\mathbf{c}'$  が成立することが容易にわかる.

前頁【準備】より, 以下が成立する.

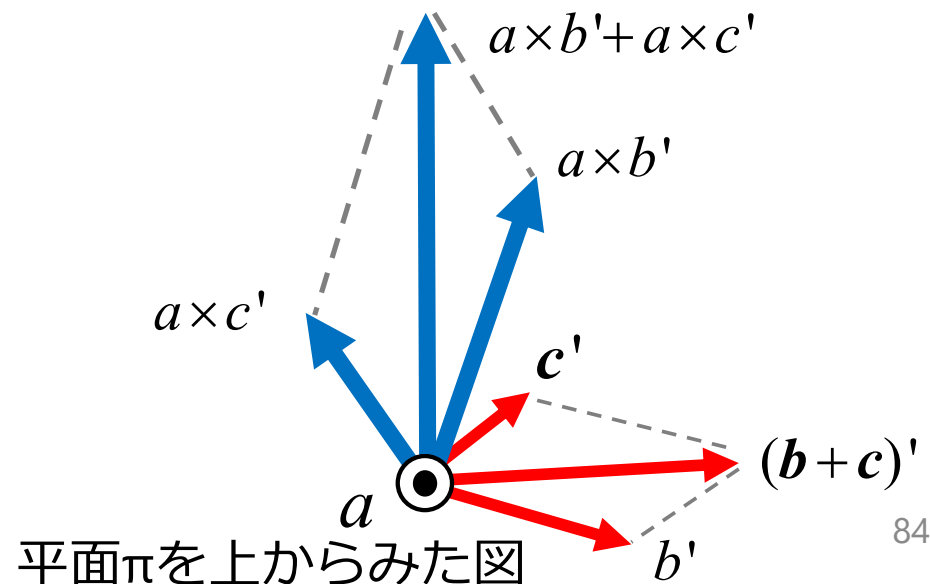
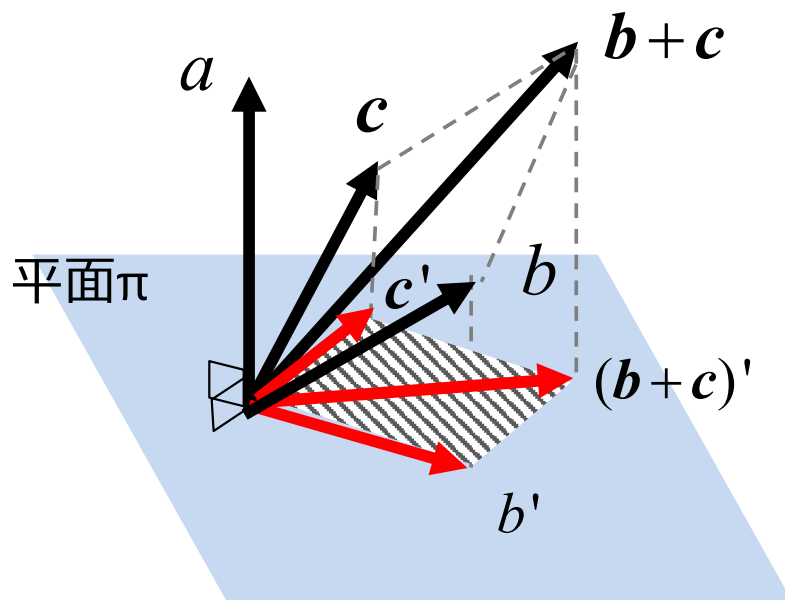
$$\mathbf{a} \times (\mathbf{b} + \mathbf{c}) = \mathbf{a} \times (\mathbf{b} + \mathbf{c})' = \mathbf{a} \times (\mathbf{b}' + \mathbf{c}') \quad (1)$$

$\pi$ 平面を上から見た図を右図に示す $\mathbf{a} \times \mathbf{b}'$  はこの平面内にあり,  $\mathbf{b}'$ を反時計回りに90deg回転させたベクトルであり,  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}'\| = \|\mathbf{a}\| \cdot \|\mathbf{b}'\|$  である.

$\mathbf{a} \times \mathbf{c}'$  も  $\mathbf{c}'$ を90deg回転させたベクトルであり, 大きさは $\|\mathbf{a} \times \mathbf{c}'\| = \|\mathbf{a}\| \cdot \|\mathbf{c}'\|$ である. したがって,  $\mathbf{b}'$ と $\mathbf{c}'$ で作る平行四辺形と,  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}'$  と  $\mathbf{a} \times \mathbf{c}'$  で張る平行四辺形は相似である. したがって,  $\mathbf{b}'$ と $\mathbf{c}'$ で作る平行四辺形の対角線を構成するベクトルの大きさは,  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}' + \mathbf{a} \times \mathbf{c}'\| = \|\mathbf{a}\| \cdot \|\mathbf{b}' + \mathbf{c}'\|$  を満たす. このことから, 次式が成立する.

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b}' + \mathbf{a} \times \mathbf{c}' = \mathbf{a} \times (\mathbf{b}' + \mathbf{c}') \quad (2)$$

式(1), (2)と前頁の準備からより,  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} + \mathbf{a} \times \mathbf{c} = \mathbf{a} \times (\mathbf{b} + \mathbf{c})$  が成立する. (証明終)



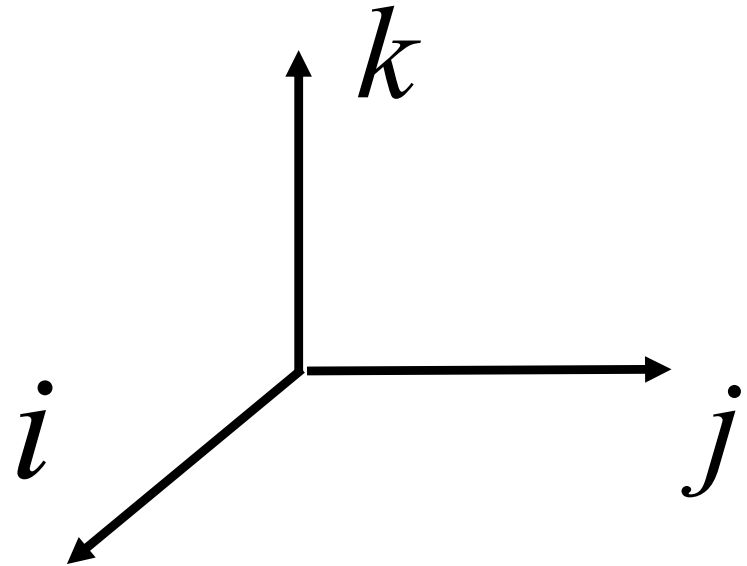
# 外積

【外積の基本的性質】

$$i \times j = k, \quad j \times k = i, \quad k \times i = j$$

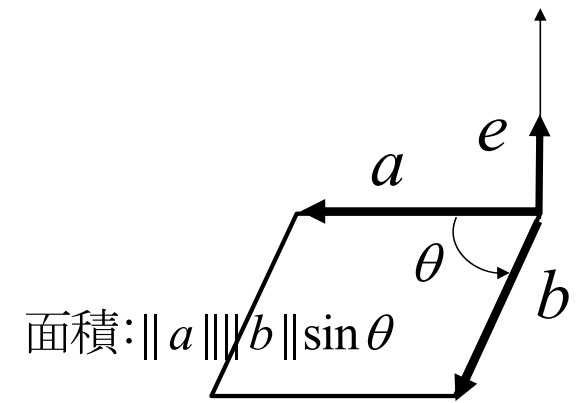
$$a \times b = -b \times a$$

$$a \times a = 0$$



# 外積の性質 (2)

1. 方向 :  
ベクトル  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  と直交する.



2. 成分表示  
が成立する.

$$\mathbf{a} = [a_x, a_y, a_z]^T, \mathbf{b} = [b_x, b_y, b_z]^T$$

のとき次式

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{bmatrix} a_y b_z - a_z b_y \\ a_z b_x - a_x b_z \\ a_x b_y - a_y b_x \end{bmatrix} = (a_y b_z - a_z b_y) \mathbf{i} + (a_z b_x - a_x b_z) \mathbf{j} + (a_x b_y - a_y b_x) \mathbf{k} \quad (\times)$$

$\mathbf{i}, \mathbf{j}, \mathbf{k}$

は, 成分表示をする座標系の座標軸方向を向いた単位ベクトルであり  
次式で与えられる.

$$\mathbf{i} := \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{j} := \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{k} := \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

# 成分表示の証明

## 2. 成分表示

$\mathbf{a}=[a_x, a_y, a_z]^T$ ,  $\mathbf{b}=[b_x, b_y, b_z]^T$ とするとき, 次式成立する

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{bmatrix} a_y b_z - a_z b_y \\ a_z b_x - a_x b_z \\ a_x b_y - a_y b_x \end{bmatrix} = (a_y b_z - a_z b_y)\mathbf{i} + (a_z b_x - a_x b_z)\mathbf{j} + (a_x b_y - a_y b_x)\mathbf{k}$$

---

### 【証明のヒント】

$$\mathbf{a} = a_x \mathbf{i} + a_y \mathbf{j} + a_z \mathbf{k}, \quad \mathbf{b} = b_x \mathbf{i} + b_y \mathbf{j} + b_z \mathbf{k}$$

であるから,

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = (a_x \mathbf{i} + a_y \mathbf{j} + a_z \mathbf{k}) \times (b_x \mathbf{i} + b_y \mathbf{j} + b_z \mathbf{k})$$

を計算し, 上式が成立することを証明すれば良い.  
その際, 分配則などの基本性質を用いる.

→各自で証明せよ.

# 成分表示の計算方法（暗記方法）

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \end{vmatrix}$$

---

【検算】

$$\begin{aligned} \mathbf{a} \times \mathbf{b} &= \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \end{vmatrix} = a_y b_z \mathbf{i} + a_x b_y \mathbf{k} + a_z b_x \mathbf{j} - a_y b_x \mathbf{k} - a_x b_z \mathbf{j} - a_z b_y \mathbf{i} \\ &= (a_y b_z - a_z b_y) \mathbf{i} + (a_z b_x - a_x b_z) \mathbf{j} + (a_x b_y - a_y b_x) \mathbf{k} \end{aligned}$$

# 外積の行列表現

以下の行列  $[a \times]$

$$[a \times] := \begin{bmatrix} 0 & -a_z & a_y \\ a_z & 0 & -a_x \\ -a_y & a_x & 0 \end{bmatrix}$$

は、任意のベクトル  $b$  に対して、式 (1) が成立する.

$$a \times b = [a \times] b \quad (1)$$

また  $[a \times]^T = -[a \times]$  が成立する.

→ 歪対称行列 (わい対称, ひずみ対称)  
Skew-symmetric matrix



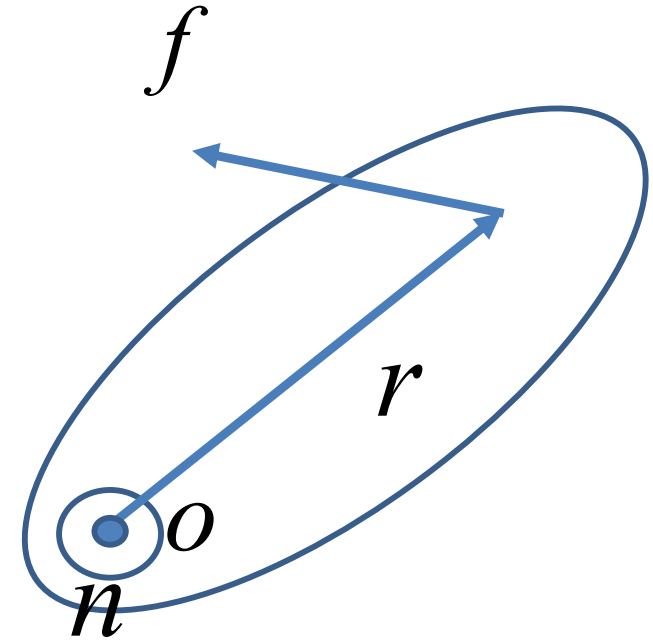
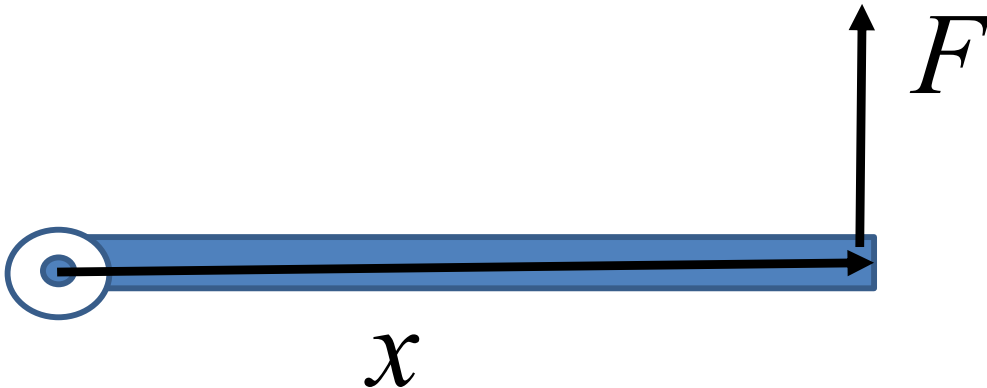
# 外積と力のモーメント

0点からベクトル $r$ の位置に、力 $f$ が作用している状況において、力 $f$ による0点まわりのモーメント $n$ は

$$n = r \times f \quad (\in R^3)$$

で与えられる.

例:  $r = [x, 0, 0]^T$ ,  $f = [0, F, 0]^T$



$$n = [x, 0, 0]^T \times [0, F, 0]^T = [0, 0, xF]$$

# 外積と力のモーメント

## 【例題】

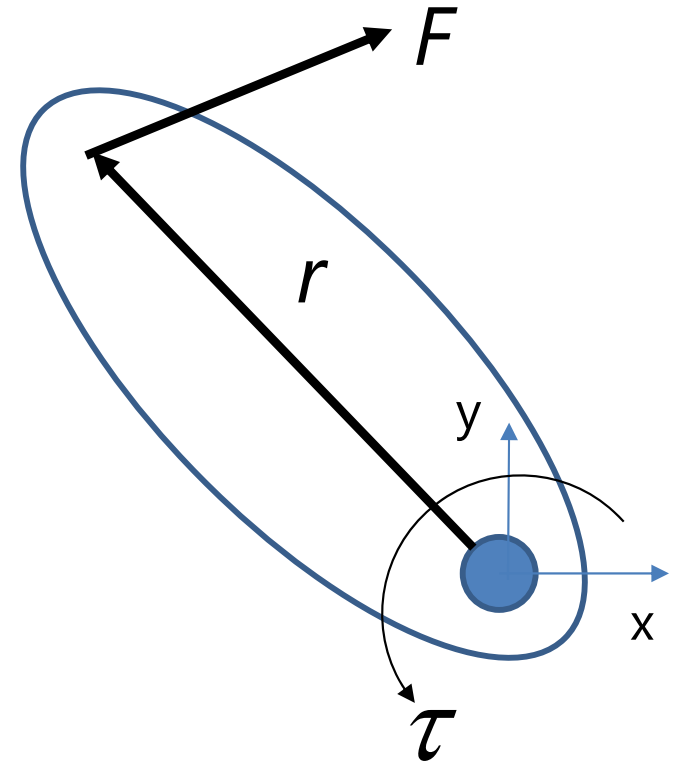
右の図のように、回転軸で固定されたリンクの固定軸からベクトル  $r$  で表される位置に、 $F$  の力が作用している。

今、回転軸のモータによりトルク  $\tau$  を印可することでこのリンクが釣り合っている。

$$\mathbf{r} = [-1, 2, 0]^T [\text{m}] \quad \mathbf{F} = [50, 30, 0]^T [\text{N}]$$

であるとき、トルク  $\tau$  を求めよ。

次ページと同じ。



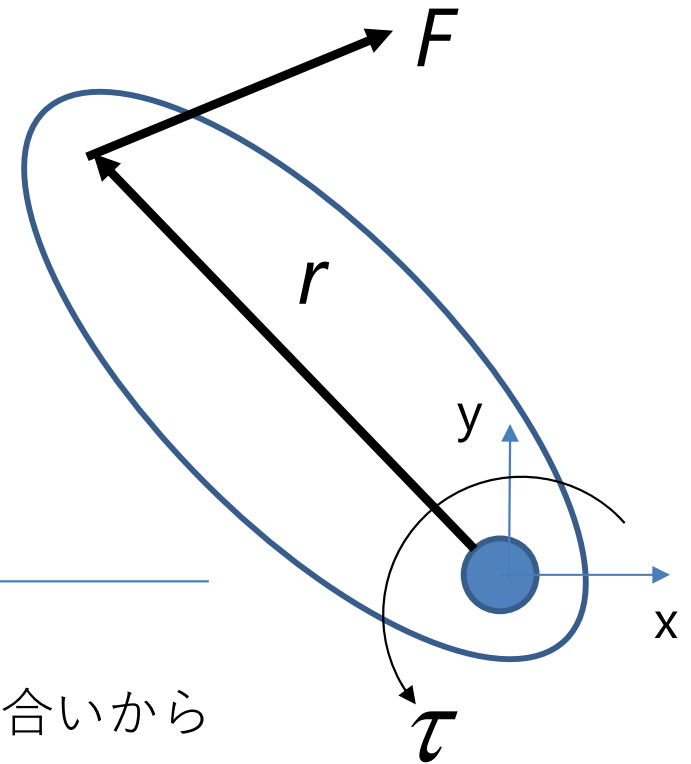
### 【例題1の解答】

右の図のように、回転軸で固定されたリンクの固定軸からベクトル  $\mathbf{r}$  で表される位置に、 $\mathbf{F}$  の力が作用している。

今、回転軸のモータによりトルク  $\tau$  を印可することでこのリンクが釣り合っている。

$$\mathbf{r} = [-1, 2, 0]^T [\text{m}] \quad \mathbf{F} = [50, 30, 0]^T [\text{N}]$$

であるとき、トルク  $\tau$  を求めよ。



回転軸においてモータが作りだすトルクをベクトル  $\boldsymbol{\tau}$  とおく。このとき、回転軸まわりのモーメントの釣り合いから  $\boldsymbol{\tau} + \mathbf{r} \times \mathbf{F} = 0$  が成立する。これを  $\boldsymbol{\tau}$  について解く。

$$\begin{aligned} \boldsymbol{\tau} &= -\mathbf{r} \times \mathbf{F} = - \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ -1 & 2 & 0 \\ 50 & 30 & 0 \end{vmatrix} \\ &= -(0 - 0)\mathbf{i} - (0 + 0)\mathbf{j} - (-30 - 100)\mathbf{k} \\ &= \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 130 \end{bmatrix} [\text{Nm}] \end{aligned}$$

モータが発生するトルクは  $z$  軸周りであるから、 $\tau = 130 [\text{Nm}]$

# 外積と力のモーメント

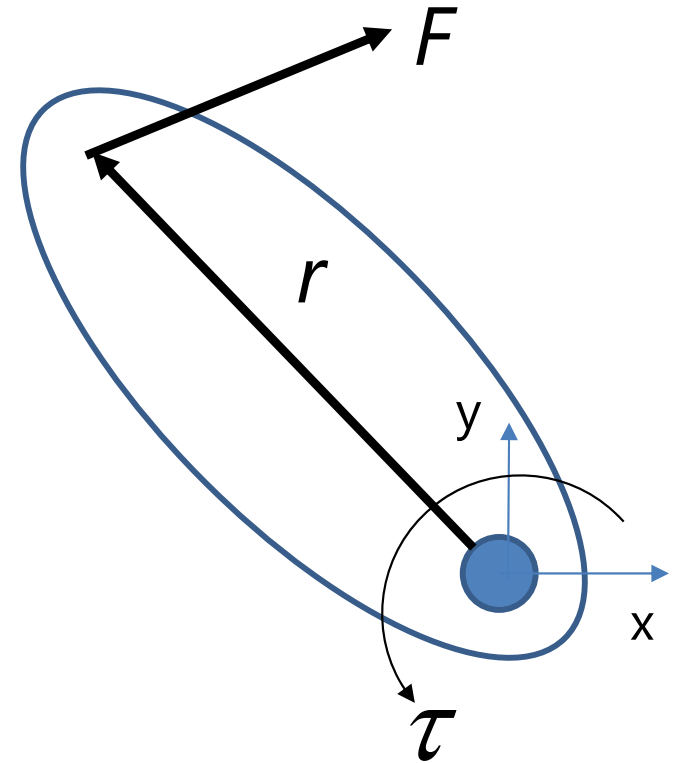
## 【例題 2】

右の図のように、回転軸で固定されたリンクの固定軸からベクトル  $r$  で表される位置に、 $F$  の力が作用している。

今、回転軸のモータによりトルク  $\tau$  を印可することでこのリンクが釣り合っている。

$$\mathbf{r} = [-1, 2, 0]^T [m] \quad \mathbf{F} = [50, 30, 1]^T [N]$$

であるとき、トルク  $\tau$  を求めよ。



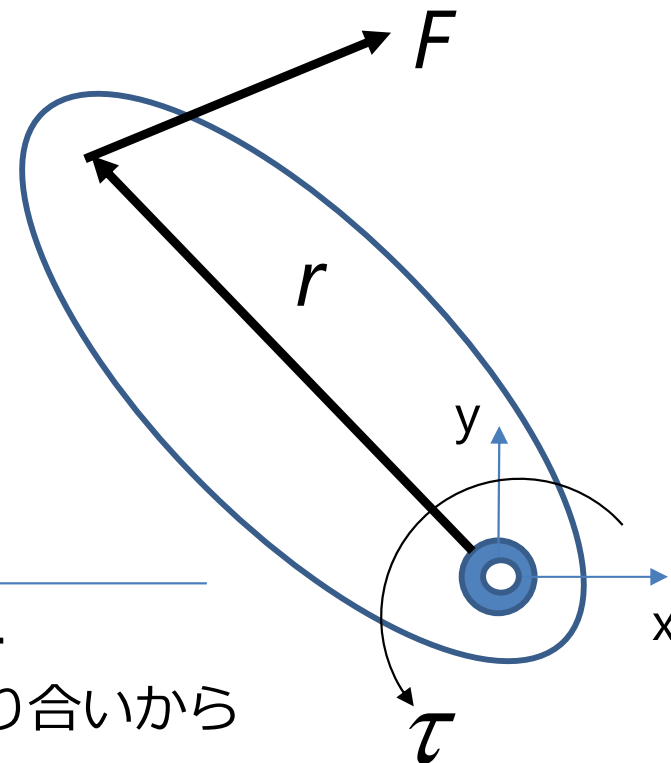
### 【例題解答】

右の図のように、回転軸で固定されたリンクの固定軸からベクトル  $r$  で表される位置に、 $F$  の力が作用している。

今、回転軸のモータによりトルク  $\tau$  を印可することでこのリンクが釣り合っている。

$$\mathbf{r} = [-1, 2, 0]^T [\text{m}] \quad \mathbf{F} = [50, 30, 1]^T [\text{N}]$$

であるとき、トルク  $\tau$  を求めよ。



回転軸においてモータが作りだすトルクをベクトル  $\boldsymbol{\tau}$  とおく。このとき、回転軸まわりのモーメントの釣り合いから  $\boldsymbol{\tau} + \mathbf{r} \times \mathbf{F} = 0$  が成立する。これを  $\boldsymbol{\tau}$  について解く。

$$\begin{aligned} \boldsymbol{\tau} &= -\mathbf{r} \times \mathbf{F} = - \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ -1 & 2 & 0 \\ 50 & 30 & 1 \end{vmatrix} \\ &= -(2 - 0)\mathbf{i} - (0 + 1)\mathbf{j} - (-30 - 100)\mathbf{k} \end{aligned}$$

$$= \begin{bmatrix} -2 \\ -1 \\ 130 \end{bmatrix} [\text{Nm}]$$

モータがなくても、機械的に勝手に反トルクが発生する部分。

モータが受け持つトルク（モーター電源OFF時には自由に回転できるので、モータが反トルクを書けないと行けない。

モーターが発生するトルクは  $z$  軸周りであるから、 $\tau = 130 [\text{Nm}]$